

# 水源地域対策アドバイザー派遣制度報告書

〔 蓮ダム周辺地域  
三重県松阪市 〕

平成23年3月

三重県 松阪市

## 目 次

1. 概要	-----	1
2. 水源地域の現状と課題	-----	4
3. 希望指導事項	-----	5
4. アドバイザー派遣概要	-----	6
『アドバイザーからの提言』	-----	25
5. 今後の方向性・取り組み	-----	42

平成22年度  
水源地域対策アドバイザー派遣制度報告書

1. 概要

位置図

- (1) 市町村名  
三重県松阪市
- (2) 派遣対象地域  
蓮ダム周辺地域



- (3) 松阪市の概況

松阪市は、三重県のほぼ中央に位置し、東は伊勢湾、西は台高山脈と高見山地を境に奈良県に、南は多気郡、北は雲出川を隔て津市に隣接し、

東西約 50km、南北約 37km にわたっています。総面積は 623.77km<sup>2</sup> で、このうち、農地 82.06km<sup>2</sup> (13.2%)、宅地 27.98km<sup>2</sup> (4.5%)、山林 429.57km<sup>2</sup> (68.9%) となっています。

地形は、西部一帯が台高山脈、高見山地及び紀伊山地からなる山岳地帯、中央部は丘陵地で、東部一帯には伊勢平野が広がり、北部を雲出川、南部を櫛田川が流れています。

気候は概ね東海型の気候区に属し、西部は寒暑の差がやや大きく内陸的な特性を持っています。年間平均気温は 14～16℃で、全般的に温暖でおだやかな気候です。降水量は平野部では 1,500mm 程度ですが、山間部では 2,000mm～2,500mm とかなり多くなっています。

本市は、平成 17 年 1 月 1 日に松阪市、嬉野町、三雲町、飯南町、飯高町の 1 市 4 町が合併して誕生しました。本市における過疎地域は、合併前 1 市 4 町のうち、旧飯南町と旧飯高町の 2 地域が指定されています。過疎地域の人口は、合併時点で市域の人口 168,973 人(平成 17 年国勢調査)に対して 10,802 人と 6.4%に過ぎませんが、面積においては 50.9% を占めています。

- (4) 人口及び産業の推移と動向

松阪市全体の人口は、昭和 35 年で 141,245 人(国勢調査、旧松阪市、旧嬉野町、旧三雲町、旧飯南町、旧飯高町の合計)から平成 17 年で 168,973 人(国勢調査)と右肩上がりに増加してきました。

また、産業就業人口比率の推移をみると、昭和 35 年は第一次産業 46.3%、第二次産業 20.9%、第三次産業 32.8%で、平成 17 年では第一次産業が 5.3%、第二次産業 32.7%、第三次産業 61.2%となっており、第一次産業が大きく減少している一方で、第二次産業、第三次産業で増加しており、産業構造は第一次産業から第三次産業へシフトしています。

## (5) 松阪市飯高地域（旧飯高町）の概要

### ア. 地域の自然的、歴史的、社会的、経済的諸条件の概要

飯高管内は松阪市の西部に位置し、面積は 240.94km<sup>2</sup> で、東は同市飯南管内に、西は奈良県東吉野村に、南は大台町に、北は津市及び奈良県御杖村に接しており、東側を除き三方を 1,000m 級の山々に囲まれた山間地域で、面積の 94.2%を山林が占めています。

管内の中央には櫛田川が東流し、この櫛田川に沿って国道 166 号が東西に走り、管内唯一の幹線動脈となっております。国道 166 号を軸に国道 422 号を支脈とする道路網が形成され、主要な集落がこの国道沿いに点在しています。

管内のほとんどを傾斜地が占め、深い溪谷を形成していることから、土地利用の面では様々な制約があります。山地は肥沃な森林褐色土壌で覆われているため、この土壌を活用した森林づくりが盛んです。

気候は、東海型と南海型の気候区との中間的な特性を持っており、山間地域であるため、年平均気温は 14℃を少し上回る程度ですが、一年を通じて概ね 9℃以上の気温差があり、寒暖差の大きい気候を示しています。降水量は年間 2,000mm～3,000mm とかなり多く、降水日数は年平均 133 日で、平野部に比べ 20 日程度多くなっています。

明治 22 年の町村制施行により宮前、川俣、森、波瀬の 4 か村が創立され、昭和 31 年の町村合併促進法で、4 か村が合併して飯高町が誕生しました。平成 17 年 1 月 1 日には松阪市、嬉野町、三雲町、飯南町、飯高町の 1 市 4 町が合併しました。

### イ. 地域における過疎の状況

本管内の人口は減少傾向にあり、特に若年層の減少が著しく、また、高齢者比率はますます高くなる傾向にあります。

これまでの過疎対策は、主なものとして、中学校及び小学校の統合や、福祉施設の整備として飯高老人福祉センター、飯高保健センター、高齢者生活福祉センター“たんぽぽの丘”の建設、産業の振興のため、飯高林業総合センターや農産物加工施設、産業振興センターの建設、特産品の販売施設である道の駅“飯高駅”の開発を進めてきました。

また、都市交流センター“ホテルスメール”や宿泊施設“グリーンライフ山林舎”、つつじの里“荒滝”の建設、天然温泉掘削等を進めてきました。特に、天然温泉の掘削は道の駅“飯高駅”周辺で行い、温泉館や体験施設を整備したことで都市住民との交流が活性化し、特産品の販売のみならず食文化を伝える施設、食を体験する施設として親しまれています。

他に、生活環境の整備として西部簡易水道事業を進め、CATV の導入や飯高 B&G 海洋センターの建設、国道 166 号の改良工事や高見トンネルの開通を進めてきました。

### ウ. 社会経済的発展の方向

本管内の産業は、農林業を中心に営まれてきましたが、急速な少子高齢化と人口流出により耕作放棄地の増加や森林の荒廃が顕著となっております。管内の基幹産業である林業就労者は高齢化とともに新規就労者が減少するなど、膨大な森林資源の育成管理に携わる労働者の確保も重要な課題となっております。

一方で、過疎対策事業として進められてきた道路整備により、管内の道路網は関西方面と伊勢志摩方面を結ぶ交通の要衝として、交流人口の増加に大きな期待が寄せられています。

今後は、地域資源を生かした産業の振興とともに観光と交流を進め、過疎地域の自立促進のための対策を積極的に進めていく必要があります。

## エ. 人口及び産業の推移と動向

飯高管内の人口は年々減少の一途をたどっており、昭和 35 年に 11,717 人（国勢調査）あった人口は平成 17 年には 5,002 人（国勢調査）となり、57.3%減少しています。

また、人口の減少が進むなかで、65 歳以上の高齢者人口は増加傾向にあり、昭和 35 年の高齢者比率が 7.9%であったのに対し、平成 17 年には 39.0%と高齢化が急速に進んでいます。一方、15 歳未満の年少人口は年々低下しており、昭和 35 年に 34.3%あった年少人口比率は、平成 17 年には 10.5%と激減し、少子化が顕著となっています。

産業就業人口比率は、昭和 35 年で第一次産業 57.0%、第二次産業 22.9%、第三次産業 20.1%でしたが、平成 17 年では第一次産業が 12.8%、第二次産業 36.9%、第三次産業 50.0%となり、産業構造は、第一次産業が急激に減少し、第二次産業、第三次産業の割合が高くなっています。

## オ. 地域の自立促進の基本方針

飯高管内は、豊かな自然環境に恵まれた地域であり、自然や歴史・文化的資源を生かした産業の振興に努めるとともに、鳥獣害対策を強化するなどして農林業の振興を図ります。また、クレソンなどの地域の特産品における多品目少量生産を奨励し、地域産業の活性化を図ります。優れた自然や文化的な地域資源の整備・活用を進め、他の地域との交流や連携を通じて、新しい価値の創造を図ります。

活力が低下しつつある地域コミュニティに対しては、設立された住民協議会の育成を強化し、自立した地域社会の確立と他の地域との連携による地域の活性化を目指します。

基本的な方向としては、地域の特長を生かした下記の施策を推進します。

- ①豊かな自然環境や文化的資源を活用した観光と交流によるまちづくり
- ②地域の特産品を生かした産業の振興や雇用対策
- ③鳥獣害対策を強化するなどした遊休農地の活用
- ④交通体系を整備し、地域住民の生活交通の確保
- ⑤山林の持つ水源涵養機能の維持や国土保全の観点から森林の団地化集約施業の促進
- ⑥統廃小学校等の跡地利用の促進

## 2. 水源地域の現状と課題

飯高地区は、松阪市の西の玄関口（関西からの玄関口）と言われているが、市域の3分の1を占める広大な面積を有し、その95%が森林という典型的な中山間地域ある。

今、少子高齢化、産業構造の変化に伴い、特に林業、農業、建設業の衰退で地域社会の活力の極端な低下や地域コミュニティの崩壊に対する不安が増している。昭和34年に伊勢湾台風によって甚大な被害を受け、この被害を教訓に災害に強い安全なまちづくりをめざし、防災、治山治水事業、道路整備、情報の伝達施設等の整備に精力的に取り組んできたが、まだまだ万全ではない。救急医療や公共交通機関の廃線等により高齢者等の交通手段の問題も深刻化している。材木価格等の低迷により先人が守ってきた森林は荒廃が進み、農地は後継者不足や獣害被害により、耕作放棄地が多々見られるようになってきた。このような状況から集落維持にも支障をきたし、消滅の危機にもなっておりこれらの対策や、この地で生まれた方が生涯を通して誇りを持ってこの地で暮らせるよう高齢者の生きがい対策などが現在の課題となっている。

こうした中であっても、森林や農地を守り、水を守り、地域に残された文化を守り、美しい地域を未来の世代に継承していこうと懸命に地域と行政が手を取り合って努力している。このようなことから、松阪市でも早くから地域活性化団体を自主的に組織し、地域の特色を活かしたまちづくりに取り組んでいる。「地域のことは地域で」を合言葉に、現在では宮前、川俣、森及び波瀬の4地区全てに、住民協議会が発足し、それぞれ特色ある地域づくり活動を実践している。特に、水源地域の森地区では、ダム工事が始まると人口が流出し、地域をどのようにすれば良いかということを経験した地域住民が真剣に考え、地域が主体的に取り組み昭和60年に「森を考える会」が創設された。

「森を考える会」も発足から25年が経過し、地域づくりに取り組んでいる実働人員も限られ元気度もパワーアップしていかないのも現状である。地域イベントが、イベントをするためのイベントであったり、固定化していたり、一過性であったりすることから、地域力の向上や地域ビジネスの創生に繋がるようなイベント企画が課題となっている。

### 3. 希望指導事項

イベント企画（地域振興・地域間交流のためのソフト面での対策）

蓮ダムがある森地域は、地域づくりを実践しているまちづくり団体の「森を考える会」を中心に、地域のあり方を住民自らが真剣に考え、イベント、まちづくり、地域の活性化を活発に推進している地域である。

この中でイベントについては、地域住民が趣向を凝らし開催してきましたが、回を重ねるごとに新鮮味が薄れてきている状況も否めないところである。また、イベントは一過性の色合いも強く、イベントを地域の活性化に繋げていく方策を模索している。

また、当地域を通る国道166号（松阪～奈良を結ぶ）の全線改良も残すところあとわずかとなっていることから、地域間交流の要素も出てきている状況である。今後とも「森を考える会」を中心にダム周辺だけに留まらず、これらのイベントを通じて都市部と当地域との交流の推進により、地域活性化の推進を図ると共に、地域経済における雇用の創出を図ることは、地域コミュニティの再生や地域ビジネスに繋がり、地域が真に活性化していけるようにと考えている。

このようなことから、10年間を見据えたイベントの方針、企画並びに交流のあり方等の指導等を希望した。

また、当地域は鳥獣害被害により農地等の荒廃地等が増えている状況であり、猟友会による害獣の駆除等が行われているが、駆除した害獣の利活用が活発に行われれば駆除する数も増え被害が抑えられ、併せて地域の活性化に繋がる道もあると考えており、利活用等の指導を併せて希望した。

## 4. アドバイザー派遣概要

### (1) 第1回水源地域対策アドバイザー派遣概要

#### ◆ 1日目

日 時： 平成22年10月14日（木）

視察場所： 森地区（会議の前に森地区の状況等視察）

会議場所： 松阪市飯高地域振興局森出張所 2階会議室

内 容： 水源地域概要説明、地域住民団体の活動状況説明等

出席者： 二瓶長記アドバイザー

#### 【住民団体 森を考える会】

中西紀代一（会長）、湯谷國秀（副会長）、柳谷一夫（副会長）瀬古功己（監事）、前川洋二（理事）

#### 【松阪市】

海住利彦（飯高地域振興局長）、中西士典（飯高地域振興局次長）

寺脇充（地域整備課長）、福山雅文（地域振興課長）、内田寿明（地域振興課主幹）、小池洋子（森出張所長）

#### 【三重県】

近藤和也（土地資源室主幹）

#### 【国土交通省】

田作光良（国土交通省 水源地域対策課 計画係長）

早川信光（国土交通省 蓮ダム管理所長）

議 題： 松阪市の概要について

飯高地域及び蓮ダム周辺地域の概要について

地域活性化の団体及び活動（イベント）状況、意見交換等について

#### 会議内容

##### ○ 松阪市の概要について

松阪市より説明

##### ○ 飯高地域及び蓮ダム周辺地域の概要について

松阪市より説明

##### ○ 地域活性化団体及び活動（イベント）状況、意見交換等について

**森を考える会会長：** ダム完成を控え工事が本格

化したことから相当数の人がこの地を離れた。

この地域を何とかしなければという思いから昭

和60年に「森を考える会」を設立した。会の

事業の一つとして自分たちで公園を造り、花木による植栽など景観づくりを進めてきた。

山林業が衰退し若者は町で仕事をしなければならなくなり、若者の人口流出は止まらず森

地内では6割まで人口が減少した。後継者の問題、生活面での財産の問題、ダムを取り巻

く環境の問題など地域の悩みは尽きないが、何とか地域を元気づけたいという一念で頑張





ってきたし、これからも頑張りたいと考えている。

➤ **観光振興、地域づくりの観点からの過去の事例について**

ダム湖に隣接したローラーリージュ施設（遊具施設）があったが、台風の災害により休止している。

「森を考える会」の会員は森地区の全戸313世帯が会員となっている。64名が役員で部会をつくり地域づくりに取り組んでいる。部会には研究部会（行政との関わり、木場公園の整備を担当）、文化部会（地域イベントを担当）、広報部会（広報誌発刊を担当）、運動部会（草刈、森公園の清掃、イベントのアマゴつかみを担当）、福祉部会（粗大ゴミの回収、ウォーキングイベント、福祉会組織と連携した事業を担当）がある。動いてくれる会員は年々少なくなっている。

➤ **活動に対する参加者の減少について**

昔は誰しも他人のために頑張る奉仕精神があり、役員全員が無報酬で頑張ってきた。今はそうした奉仕精神が失われつつある。

「森を考える会」の組織も世代交代が必要であり、誰でもが重要職をやる組織にしたいと思っている。木場公園の整備など多くの会員に絡んでいただき大いに貢献してほしいと考えている。

➤ **観光ボランティアに対する取り組みについて**

**アドバイザー：** 全国ではボランティアガイドの養成が花盛りである。最初は元気がいいが、無報酬のため次第に元気が失われていくケースが多い。昨今では、有償ボランティア活動になってきているのが実情である。森地区でも地域を案内できるガイドの養成の取り組みが必要ではないか。

➤ **「森を考える会」での収益事業の実施等について**

**アドバイザー：** 「森を考える会」として事業収入があれば継続性にも弾みがつくのではないか。

**森を考える会会長：** 木場公園でのダムの流木「炭焼き事業」の採算性は一定の販売額以上にならないと賃金が出ないシステムになっている。

イベントは別団体が焼きそば等を販売し収益事業を行っている。イベントは、会員が無償でやってきているが、これでは長続きしないのではないかと危惧している。

➤ **民宿・民泊等の宿泊施設について**

波瀬地区に「山林舎」、宮前地区に「つつじの里荒滝」があり、市の指定管理により運営されている。かつて、グリーンツーリズムとして「月出の里」があったが、高齢化により運営できなくなりやめてしまった。

➤ **高齢者の雇用促進について**

シカやイノシシを捕獲して食肉の販売が出来ないか考えている。三重県に実現化の方向で要望している。

薪の販売、四季折々の季節感を出す商品の販売が出来ればと思う。バーベキュー用にシカ肉、イノシシ肉の提供が可能であれば取り組みたいが、規制が厳しく提供が難しいのが現実である。

シカ、イノシシ肉の処理施設はさほど難しくないが、それを運営するとなると難しい。

過去にも実験をしたが試食会から先に進まなかった。宿泊施設でも牡丹鍋等を行っているが市場化は難しい。

➤ **流木の炭以外の活用について**

木工加工所、オートキャンプ場も考えているが、バーベキュー設備の整備が緊急課題であり起死回生の取り組みを模索している。

➤ **ダム周辺の遊歩道等について**

周辺道はあるが、遊歩道はない。湖畔公園としては津本公園が一番大きく一番活用されている。ダム湖周辺の整備も資金面で難しい面がある。

**アドバイザー：** ウォーキングイベントは単に歩くだけでなく、豊富な自然を活用してイベントと連動した山野草の摘み草も取り入れるなど、山野草の活用も一つの切り口になるのではないか。その意味でもイベントそのものの活性化を考える前に、地元の資源を掘り起こすことも重要ではなかろうか。その後に、掘り起こした資源をイベントでの活用も図っていくべきである。既存のイベントがマンネリ化していると言われていたが、イベントは目的ではなく手段であるという捉え方なら、しっかりした地域づくりの目標を定める必要がある。

その実現化のために手段としてイベントを活用するならマンネリ化はありえないはずである。地域資源活用の一例をあげると、徳島県の上勝町では木の葉っぱを商品化し「葉っぱビジネス」が有名である。ありきたりの葉っぱも食文化のツールとして付加価値をつけ、生活提案としてビジネス化を図っているのである。これからは、地域づくりも地域イベントも生活者に対して魅力ある暮らしの提案が重要であり、上勝町からこうしたことを学ぶ必要がある。その意味でも森地区での山野草の活用による村おこし事業なら説得力があると思われる。

➤ **地域おこしとしてのイベントについて**

**アドバイザー：** 森地区のイベントは単に楽しいイベントをするのではなく、地域おこしを特定課題として実験することが重要であると思われる。地域資源を掘り起こすとともに、それを活用した観光商品づくりのための実験が重要ではないか。

地域資源の活用は出来そうである。昔はシイタケを石の上で焼いて食べると美味しいことから、盛んに行われてきた。来訪者に体験してもらうことも可能であると思う。現在そのような施設はないが、皆の知恵を結集すれば可能ではないかと思う。施設の整備を含め地域振興に結びつく事業は出来ると思う。

東京の多摩地方の町では、孟宗竹が多いので竹筒を利用した炊き込みご飯を提供する提案をした。実証実験ツアーで提供したところ観光客に大変喜ばれた。現在、定着化に向け取り組み始めている。また、その町では町内のあちこちに農産物の無人販売所があり、ガイド付き「無人販売所巡りウォーキング」を定着させようとしている。

➤ **森地区ファンづくりについて**

**アドバイザー：** 飯高地区には、これだけの素晴らしい自然という「宝」がある。全国に森地区のファンづくりをしてほしい。森地区の活性化を支援してくれる「サポート人口」を拡大することである。サポート人口とは①森地区を訪れてくれる人。②森地区を訪れることは出来ないが毎年必ず特産品を購入してくれる人。③森地区を積極的にPR

してくれる人。④森地区の人々と交流を通してコミュニケーションを図っている人。⑤森地区の人々とインターネットで交信する人。こうした仕掛けづくりをしてもらいたい。

◆ 2日目

日 時： 平成22年10月15日（金）

視察場所： 森地区（ホテルスメール、蓮ダム、アマゴ養殖場）及び波瀬地区（波瀬植物園、休校の波瀬小学校、泰運寺、町並み風景）

内 容： 視 察

出席者： 二瓶長記アドバイザー

【住民団体 森を考える会】

中西紀代一（会長）

【松阪市】

福山雅文（地域振興課長）、内田寿明（地域振興課主幹）

【三重県】

近藤和也（土地資源室主幹）

【国土交通省】

田作光良（国土交通省 水源地域対策課 計画係長）

早川信光（国土交通省 蓮ダム管理所長）

（蓮ダムの風景）



（捕獲した野生のシカ）



（黒瀧神社の夫婦杉）



（アマゴ養殖場）



## (2) 第2回派遣

### ◆ 1日目

日 時： 平成22年12月17日（金）

会議場所： 松阪市飯高地域振興局森出張所 2階会議室

内 容： 全国の事例紹介、意見交換等

出席者： 二瓶長記アドバイザー

#### 【地域住民団体】

森を考える会、波瀬むらづくり協議会、川俣地区住民協議会、宮前地区まちづくり協議会

#### 【松阪市】

中西士典（飯高地域振興局次長）寺脇充（地域整備課長）、福山雅文（地域振興課長）、内田寿明（地域振興課主幹）、小池洋子（森出張所長）

#### 【三重県】

近藤和也（土地資源室主幹）

#### 【国土交通省】

古谷健蔵（国土交通省 水源地域対策課課長補佐）

早川信光（国土交通省 蓮ダム管理所長）

議 題： アドバイザーからの事例紹介について  
意見交換等について

#### 会議内容

##### ○ アドバイザーからの事例紹介について

アドバイザーから観光客は何を求めて地域を訪れるかに関するノウハウ、地域資源を活用した観光客誘致に関する事例の紹介

### 『なぜ、その地域に行きたいのか』

民間調査会社が実施した2008年の全国1000の市区町村を対象にした旅行意識調査によると、全国で最も訪れてみたい地域は、1位は札幌市、2位は函館市、3位は京都市、4位は横浜市、5位は小樽市。

その地域に行きたい理由を分析すると、

- 1位は食事が美味しい - 地域固有の食文化がある -
- 2位は自然や緑が豊か - 豊かな自然景観がある -
- 3位は魅力的な歴史建造物の存在 - 歴史と個性ある風情がある -
- 4位が魅力的な祭りやイベントがある - 個性的な賑わいづくりが得意 -
- 5位は欲しい土産や地域産品がある - 地域固有の手作りの産品が多い -



## 『地域資源を活用した各地の観光客誘致事例の紹介』

### ○仁淀川紙のこいのぼり（高知県のいの町・旧伊野町）

いの町は、土佐和紙の産地。よそにないことをやろうと和紙でこいのぼりをつくって、川で泳がせる。こうすれば地域の産業振興にも役立つはずだ。町内のあちこちの体育館で幼稚園児やファミリーに和紙に絵を描いてもらってこいのぼりをつくる。このため、遠方からの人は宿泊することになり、お金を地元で落とすことになる。町に5月のゴールデンウィーク期間中に3万人が訪れ、以来、和紙生産も活気づいてきている。このイベントは（財）地域活性化センターのイベント大賞を受賞している。

### ○雪だるまウィーク（石川県白山市・旧白峰村）

人口が1000人余り。「人口的な過疎より、心が過疎になることが恐ろしい。明日忘れる豪華さよりも永遠に残る素朴さを見せよう。」と地域は考えた。地域の連帯感を増強させるとっかかりとして雪だるまで家族を紹介するイベントを考えた。そこで、村内の家々の前に家族の数だけ雪だるまを置いた。雪だるまを見物しにお客が来るようになった。宿泊客も増えた。これも（財）地域活性化センターのイベント大賞を受賞している。イベントにかかった費用は当初、照明用のロウソク代の6万円程度だった。イベントは、何をするのかではなく、何のためにするのか重要。

### ○名栗カヌー工房（埼玉県飯能市名栗地区）

地元の木材を使ったウッドカヌーを作る。カヌーを製造出荷して収益を得るわけではない。自分のカヌーは自分で作るのが工房運営のコンセプト。カヌー工房はNPOで、カヌーが欲しい人に、カヌーづくりの指導をする。作るのに2~3週間かかる。その間の民宿への宿泊代が地元に入る。カヌーはダム湖である名栗湖で乗るようになっているので、乗らない時のカヌーの保管料も入る。こうした事業に興味をもった船の研究者でもある皇太子殿下は、名栗でウッドカヌーの作り方を見学したことがある。

### ○かつうらビッグひな祭り（千葉県勝浦市）

不要になった雛人形を全国から送ってもらい、地元婦人会を中心に綺麗に直す。神社の階段を雛壇に見立てて日本一の雛人形飾りをつくり、夜はライトアップする。ライトアップを見るために宿泊することにもなる。翌朝は日本三大朝市と呼ばれる勝浦朝市を訪れる。このイベントは地域おこしであり、そのためにも町のみんなが結束することが必要。現在、JR東日本が「かつうらビッグひな祭りツアー」も組んでいる。期間中に30万人以上が訪れる。市民、企業もこぞって参加するのが特徴である。このように地域おこしのためのイベントは、一部の人々でなく地域ぐるみでやるのが重要。また、現在は伝統工芸師を埼玉から呼んで、雛人形づくりを実演してもらっているが、ゆくゆくは、地域住民が人形づくりの技術を学び、地域に定着を狙っており、竹の産地でもあるので、竹と人形を組み合わせた土産品づくりにも取り組んでいる。

### ○江戸茶屋囲炉裏談義と明治期旧郡役所巡り（福島県南会津町）

豪雪地帯でもあり、あえて、人の来ない冬に実証実験イベントを行った。この町には江戸期の文化財的価値を有する茶屋と明治期の珍しい洋風の旧郡役所の建物があるが、ほとんど活用されておらず、また、当該地には百姓一揆で惨殺された歴史もあることから、それらをテーマに実証実験ツアーを実施し、観光資源としての新たな活用の方策を見出した。

○まちなか一万人、にしお大茶会（愛知県西尾市）

ギネスに挑戦をテーマに、街中を交通遮断して一万人の大茶会を実施し注目を浴びた。大茶会が行われた場所には大茶会を記念した公園も作られ、郵便ポストも赤でなく、緑色に塗り替えてお茶の町をアピール。現在、“おもてなしの心の向上”をキャッチフレーズにまち起こしに取り組んでいる。

○観光立村実験ツアー、竹飯づくりで客を接待（東京都日の出町）

地域の特徴を生かし、孟宗竹で炊きあげた竹飯の開発。

○ジージバァーバ杜仲茶事業（神奈川県愛川町）

荒地を開墾して高齢者や障害者が中心となって杜仲茶の栽培で商品開発し、現在では会社組織にまで成長させ、高齢者や障害者も働く地場産業のひとつに定着した。

○秦野たばこ祭り（神奈川県秦野市）

昭和の中頃まで伝統的に根付いてきた、たばこ文化に焦点をあてた。日本一の巨大火おこし器（摩擦熱で火をおこす）で火をおこし、その火が2日間の祭りのすべてを司る主役となる炎の祭典。弘法大師伝説にちなみ、108本の松明が河川を炎に包む神奈川県有数の一大イベントに成長。2日間で30万人を動員。

○遠野昔語りのまちづくり（岩手県遠野市）

市内の公共トイレも町の景観と調和させている。

○おわら風の盆のまちづくり（富山県富山市八尾町）

生ゴミ置き場も伝統的街並み景観に配慮して設置されている。

○キッズ観光ガイドで郷土愛（東京都東村山市）

子供たちを中心にした「キッズ観光ガイド」の養成に取り組んだ。子供たちは郷土の歴史を知ることができると同時に、観光ガイドを通して表現力を身に付け、郷土愛を育てることに役立った。これからの地域振興のひとつに観光ガイドづくりは重要ポイント。

○INAKA ツアー（日韓文化交流事業、韓国大学生による山梨ツアー）

日韓文化交流の一環として韓国の大学生（1大学1名の30大学）を日本に招待し、日本の文化が色濃く残っている日本の田舎を体験してもらったところ、参加者から好評を得た。我々日本人にとってはどうってことないことだが、外国人にとっては異文化に触れる喜びとなった。

**魅力ある  
地域づくりの処方箋**  
～地域資源はこうして活かせ！

地域創造プロデューサー  
二瓶 長記

**地域資源を活用した  
各地の観光客誘致事例**



## 仁淀川紙のこいのぼり

高知県の町(旧伊野町)



## 雪だるまウィーク

石川県白山市(旧白峰村)



## 名栗カヌー工房

環境省エコツーリズム推進モデル地区指定

埼玉県飯能市名栗地区







かつらビッグひな祭り

千葉県勝浦市





江戸茶屋囲炉裏談義と  
明治郡役所巡り

福島県南会津町



～まちなか一万人～  
にしお大茶会

愛知県西尾市



観光立村実験ツアー  
竹飯づくりで客を歓待

東京都日の出町



ジージバアバ杜仲茶事業

神奈川県愛川町



秦野たばこ祭り

神奈川県秦野市

